

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

県営名古屋空港ターミナルビルにおける大規模集団接種について

2021年5月24日より県営名古屋空港ターミナルビルで、名古屋市、春日井市、小牧市、豊山町の高齢者を対象として新型コロナワクチンの大規模接種が開始となりました。

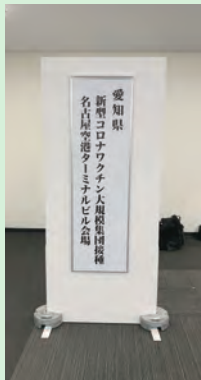
愛知県知事主導のもと本プロジェクトを立ち上げ、あいち小児保健医療総合センター、愛知精神医療センターのスタッフの協力により「愛知県がんセンター名古屋空港ターミナルビル診療所」を設置して実施しております。

現在では、3つの県立病院の他、多くの医療施設の協力を得て運営が行われております。

会場で使用されるワクチンは、モデルナ社製のmRNAワクチンで、ファイザー社製のワクチンと同様に発症を大きく抑える効果があります。接種後には接種部位の痛み、発熱などの副反応が出ることもありますが、ほとんどは数日で回復します。

今後ワクチン接種が広がることによって、感染を収束させることが期待されます。

現在国内で感染が広がっている状況ですが、少しでも早く感染者を減らすためにも、ぜひ前向きにワクチン接種をご検討ください。



感染制御部 室長 伊東直哉

公開講座をオンデマンド配信としました

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、全5回の公開講座開催を中止いたしましたが、今年度はオンデマンド配信として実施いたします。

オンデマンド配信は初めての取り組みで、2週間いつでもどこでも見られるようにし、これまで時間がなく来られなかった方や遠方の方など、幅広い方々にご視聴いただければと思います。

現在、第2回まで公開が終了し、以前と変わらず好評をいただいております。第3回は9月3日(金)14時から配信いたしますが、8月20日(金)から事前申し込みを受け付けます。

申し込み及び詳細は、愛知県がんセンターのホームページをご覧ください。

<https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/cc/03kouza/>

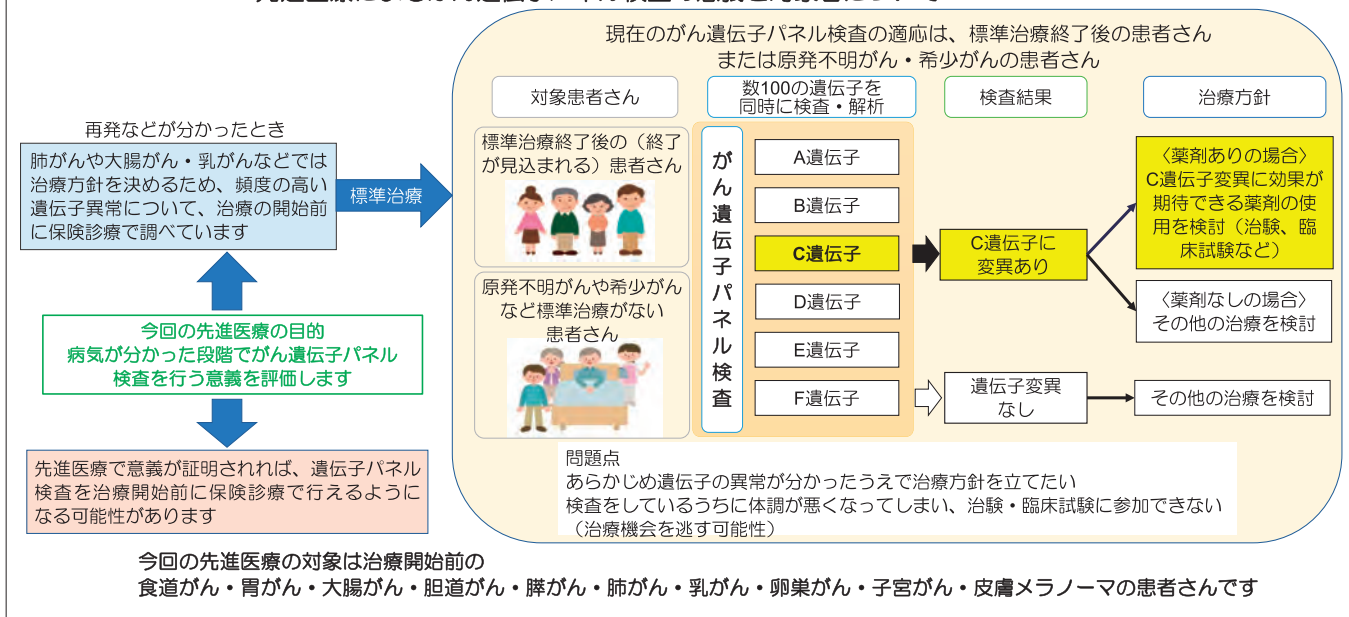
がんの遺伝子異常を治療開始前に評価する先進医療が始まりました



がんゲノム医療センター長
衣斐 寛倫

この度、がんゲノム医療センター長を拝命した衣斐寛倫です。がんゲノム医療センターは、遺伝子パネル検査を昨年度367例（保険診療326例、自費検査41例）行うなど、患者さんに治療の機会を提供する努力を続けています。しかしながら、本検査でがんに特徴的な遺伝子の異常が見つかり、対応した治療が受けられる患者さんは10%程度と不十分な状況です。その理由として、遺伝子パネル検査は、保険診療では標準的な治療が終了したのちにしか行えないため、せっかく検査を行ってもその間に病状が進行してしまう問題があります。このため、2021年6月より、京都大学らと治療開始前に遺伝子パネル検査を行う意義を評価する先進医療を開始しました。患者さんの自己負担額は35,970円です。本先進医療に参加することで、がんの遺伝子異常をより早期に把握し、適切な治療方針を立てる際の参考にすることが可能になります。ご興味のある方は、主治医にご相談ください。

先進医療によるがん遺伝子パネル検査の意義と対象者について



医薬品の安全・安心なサプライに取り組みます ～薬剤部～



薬剤部長
松崎 雅英

本年4月に薬剤部長を拝命しました松崎雅英です。昨年度は臨床薬剤部長を担っておりました。どうぞよろしくお願いたします。

昨年度、薬剤部から病棟活動部門が切り離され、病院内での医薬品サプライを専門で担当する部門となり、今後も医薬品の安全を確保し、安心をご提供することを念頭に取り組んでまいります。

また、近年では、医薬品の安定供給確保が新たな課題となっています。代替薬の選定や複数の購入ルートを確認することで安定供給に努めてまいります。

さらに、当院は、コロナ感染対策としてワクチン接種の推進に積極的に取り組んでおります。特に、県営名古屋空港において大規模集団接種を行っており、接種率の向上に寄与したいと考えています。薬剤部からもワクチン管理と共にワクチン調製のために県営名古屋空港へ毎日数名が出向き、安心で安全なワクチン接種が進められるよう努めています。

安心・安全な薬物療法の推進を目指します ～臨床薬剤部～



臨床薬剤部長
稲熊 一英

2021年4月1日付けで臨床薬剤部長を拝命しました稲熊一英です。

「臨床薬剤部」とは、従来の薬剤部の病棟薬剤業務を担っていた指導科を独立させた部門であり、部長のほか指導科長を含め12名の薬剤師が病棟を活動の中心として医薬品の適正使用を目的に業務を行っています。

具体的には、入院時の持参薬の調査、新たな薬物療法の開始時における患者さんへの薬剤説明、薬による副作用の発現状況の確認やその支持療法の提案などです。また、感染管理、栄養管理、緩和ケアなど医師、看護師をはじめとした多職種協働で行われるチーム活動にも参画し、薬剤師ならではの視点からより良い治療に向けた提案などを行っています。

最近では、入院中の患者さんが退院後の在宅療養においても安心して薬物療法が続けられるよう、在宅医や訪問看護ステーションのスタッフが参加する退院前合同カンファレンスにも参加しています。

とうろく医探訪

エスエル医療グループ

おいわ消化器クリニック 院長:大岩 哲哉 先生



愛知県がんセンターの皆様には、医療連携や情報提供などでいつも大変お世話になり、ありがとうございます。

中区栄にあるエスエル医療グループのおいわ消化器クリニックです。エスエル医療グループは1972年以來の歴史があり、がんセンターとはグループ全体で長い間、連携させていただいていると聞いています。現在、診療科12科35診療所(うち内科19)で構成されており、外来診療は総合病院に近い態勢で行っています。自分の専門分野以外も専門医が診療していますのでグループ内の連携も非常に充実しており、皆様に安心して受診していただいています。

私自身はグループに参加してまだ約6年ですが、主に消化器領域の診療をしており、特に消化器内視鏡検査(食道、胃、大腸)を積極的に行っています。口から肛門までの全消化管の検査が可能です(小腸はカプセル内視鏡)。鎮静下検査の希望も多く、胃・大腸同日検査も行っています。がんについては早期発見を目標として安全で正確な検査・診療を心がけています。治療については病院に依頼するのですが、がんセンターは予約も早く治療も迅速に行なっていただけるため、患者さんの満足度がとても高く、大変感謝しております。愛がんネットも利用させていただいています。

コロナ禍で世の中すべてが大変な時期ですが、病気は待ってくれません。消化器症状のある方、検診で精密検査が必要とされた方に、病気の早期発見のため、また安心のためにもお役に立ちたいと考えています。これからもよろしくお願ひします。

おいわ消化器クリニック

診療科目/内視鏡内科・消化器内科・肝臓内科・内科

電話/TEL 052-959-5560

所在地/〒460-0004 名古屋市中区新栄町1-3 日丸名古屋ビル8階

ホームページ/https://www.ooiwa-clinic.com



	月	火	水	木	金	土	日	祝
09:00~12:00	●	●	▲	●	●	▲	×	×
12:00~14:00	大腸内視鏡検査						×	×
14:00~16:00	●	●	×	●	●	×	×	×

▲・・・水曜・土曜の診療受付時間は 9:00 ~ 11:30 となります
休診日: 日曜・祝日・水曜午後・土曜午後・年末年始・お盆期間

編集後記: 名古屋の中心、地下鉄栄駅5番出口より徒歩3分という好立地にあり、消化器疾患の早期発見や治療が中心ですが、特に胃・大腸内視鏡検査が充実しているといえます。日帰りポリープ切除や鎮静下での内視鏡検査、大腸内視鏡検査における炭酸ガスの使用(検査後の腹の張りが少ない)、NBI画像強調観察、小腸カプセル内視鏡への対応など、大病院にも負けない機器が導入され、専門性の高いかつ身体への負担の少ない検査が受けられます。当院へは消化器癌の患者さんをご紹介いただいております。今後ともよろしくお願ひいたします。Y.SANO

悪性中皮腫における新しい治療標的の同定

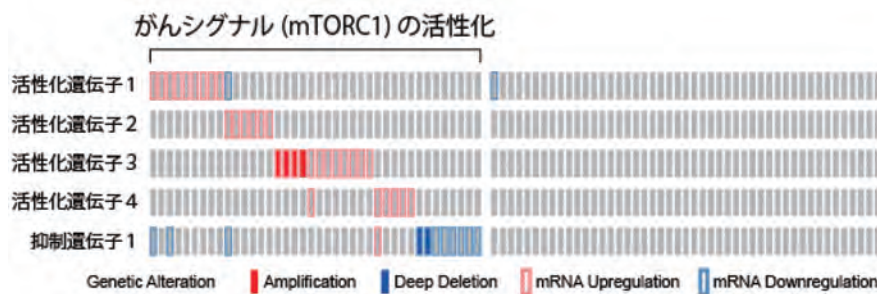
研究所 分子腫瘍学分野



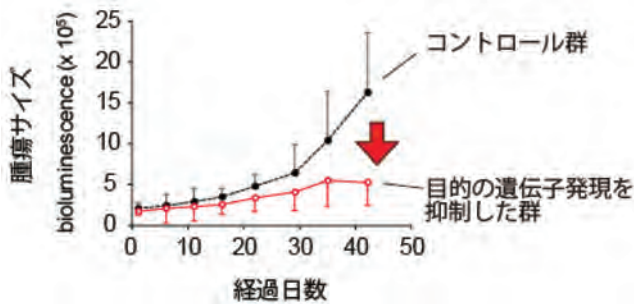
分子腫瘍学分野
主任研究員
佐藤 龍洋

アスベストは目に見えない針のような形状をして空気中を飛散します。これを吸い込んで肺やそれを保護する胸膜に刺さってしまうと、長い年月を経て悪性中皮腫と言われる非常に悪性の高いがんを発症する危険性があります。国内におけるアスベストの輸入や使用はすでに禁止されてきましたが、悪性中皮腫の患者数はいまなお増え続けています。

悪性中皮腫は良い治療法や治療薬がなく、当分野では薬のターゲットとなるような細胞内分子を探索しています。今回、私たちは種々のがんにおいて高度に活性化しているがんシグナルに着目して解析を行ったところ、約4割の悪性中皮腫の患者さんでこれらの活性化に強く関連すると考えられる遺伝子群の発現に異常があることを見つけました（図上段）。さらに、この活性化したがんシグナルを抑制する新たな標的を同定し、この遺伝子の発現を実験的に抑制したところ、悪性中皮腫の増大が顕著に抑えられることを培養細胞を用いた実験系、およびモデルマウスを用いた実験系により明らかにしました（図下段）。今後、これらの発見をさらに発展させて新たな抗がん剤が開発されることが期待されます。



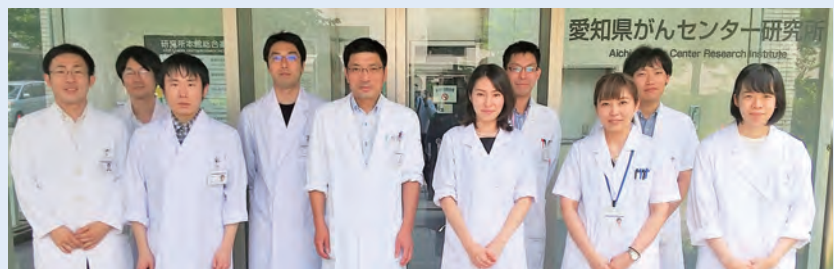
上段：今回着目したがんシグナルの活性化に関係すると考えられる遺伝子群の異常な発現パターン（赤枠：発現の上昇、青枠：発現の下降）



下段：標的となる遺伝子の発現を抑制することで、腫瘍の増大を防ぐことができることをモデルマウスで検証した。

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野 スタッフの紹介

癌の薬物療法では、がん細胞やがん周囲に存在する、細胞の特定の分子をターゲットにした薬（分子標的薬）が広く用いられています。がん標的治療TR分野では、分子標的薬がどのように効果を示すか（もしくはなぜ効かないのか）を調べることにより、患者さんにより効果のある治療法を提供することを目指しています。



写真：左から、伊藤俊成（研修生）、細野祥之（ユニット長）、築瀬正伍（技師）、足立雄太（主任研究員）、衣斐寛倫（分野長）、伊藤麻衣（秘書）、平出賢太郎（リサーチレジデント）、西岡由希（技師）、木村令（研修生）、春日夏実（技師）

大腸内視鏡時の下剤の自宅飲用を始めました

病院 内視鏡部



内視鏡部医長
山田 啓策

近年、食生活の欧米化などにより日本人の大腸がん罹患率は上昇傾向です。大腸がんの早期発見、治療のためには大腸内視鏡検査を受けることが大切です。大腸内視鏡検査をする際には下剤を飲んで腸の中を空っぽにする必要があります。当院では主にモビプレップという下剤を飲んでもらっています。外来の患者さんは主に朝9時過ぎに病院にきてもらってモビプレップを病院で飲んでもらっていましたが、今年の4月より自宅でモビプレップを飲んでもらって、便がきれいになってから病院に来てもらう自宅飲用枠も新設いたしました。ご自宅で下剤を飲むことのメリットとして自分の家でリラックスした状態で飲用できたり、便がきれいになってから病院に来ることで院内での待ち時間も減らせる可能性があります。また、現在のコロナ禍の状況においてできるだけ病院での滞在時間を減らすことができ、患者さんに安心して検査を受けていただくことが可能と考えます。もちろん、初めて大腸検査を受ける方でも安心して検査ができるように事前にモビプレップの飲用方法をしっかりと説明させていただきます。また、当日何か困った時のために電話連絡にて適切な対処方法をお話しできるよう万全のバックアップ体制もできており安心して飲んでもらえます。もちろん、今まで通り院内でモビプレップを飲んでいただくことも可能です。ご希望を担当医にお知らせください。



大腸検査時は我々が担当します。
—内視鏡部医師と看護師一同—

乳腺科部 スタッフの紹介

乳腺科は乳がんの診断から初期治療（手術、薬物療法）さらに、再発後の薬物療法まで乳がん患者さんをトータルに診療し、世界最先端の治療を提供しています。スタッフ、レジデント、認定看護師などチームとして患者さんの治療にあたっていますが、女医さんが多く、産休等もあり担当医が変わることもあります。しかし誰が担当しても治療方針が変わることはありませんので、ご安心ください。また最近では地域の開業医（乳腺を責任をもって診察できる先生）との連携を積極的に進めています。遠方の方でも治療を受けやすくなっていますので、ご活用ください。



写真：後列左から、服部正也（医長）、遠藤由香（医員）、岩田広治（副院長兼部長）、澤木正孝（医長）、能澤一樹（医員）、高塚大輝（レジデント）
前列左から、小谷はるる（医長）、磯谷彩夏（シニアレジデント）、堀澤七恵（医員）、吉村章代（医長）、片岡愛弓（医長）、尾崎友理（医員）

がん治療における“アピアランス問題”

病院 形成外科部



形成外科部長
高成 啓介

“アピアランス問題”とは、疾患などによる外見の変化により日常生活や社会生活へ影響を及ぼすことで、近年注目されつつあります。がん治療の中でもたとえば化学療法、放射線治療に伴う脱毛・皮膚炎や、顔面に発生した腫瘍による外観の変化、顔面神経麻痺、乳がんのための乳房切除など様々なところで関係してきます。これまでは病気の治療が最優先とされてきたためあまり取り上げられることはありませんでしたが、近年、患者さんの生活の質（Quality of Life, QOLとも言います）もしっかりと考えられるべきであるということが医療全体に認識されるようになり、アピアランス問題も重要であることが徐々に認知されてきました。

厚生労働省の第3期がん対策推進基本計画でも目標の中にアピアランスケアが組み込まれたり、国立がん研究センターではアピアランス支援センターが開設されるなど、この問題に取り組む施設や団体は徐々に増えてきています（表1）。2016年には「がん患者に対するアピアランスケアの手引き」というガイドラインも出ています。当院でも、形成外科はアピアランス問題に関わる外科、という意識で治療に当たっています（表2）。外科治療以外にも多くの選択肢がありますのでお困りのことがありましたら形成外科へご相談ください。

国	団体名	設立
カナダ	AboutFace	1985年
英国	Changing Faces	1994年
日本	NPO法人ユニークフェイス	2005年 (2015年解散)
日本	NPO法人MFMS (My Face My Style)	2006年
日本	アピアランス支援センター (国立がん研究センター中央病院)	2013年

表1 アピアランス問題に取り組む国内外の団体

症状	アプローチ
脱毛	帽子・ウィッグの着用
皮膚炎	スキンケア、コスメ
爪の変形・着色	マニキュア、ネイルチップ
傷あと	コスメ（カバーメイク）、テーピング
顔面の変形	外科治療、エピテーゼ（体に取り付ける人工物）
乳房欠損	外科治療、人工乳房（エピテーゼ）
眼球欠損	義眼

表2 アピアランス問題に対する様々なアプローチ

消化器外科部 スタッフの紹介

消化器外科部は、総勢22名で消化器がん全般の手術治療を行っています。腹腔鏡などの低侵襲手術から、病変を確実に切除する拡大手術まで適切な術式の選択を心掛けています。食道がん・胃がん・大腸がんでは、“ダ・ヴィンチ”を用いたロボット支援下手術も取り入れています。多施設での共同臨床試験や治験にも多く参加しており、新しい治療法の開発に積極的に取り組んでいます。

消化器がんの外科治療については、いつでも私たちにご相談下さい。



写真：上段左側：夏目医長

中段左から：藤枝医長、奥野医長、三澤医長、木下医長、伊藤誠二医長兼手術部長、清水副院長兼部長、小森医長兼集中治療部長、安部医長、伊藤友一医長、檜垣医長、佐藤医長

下段左端：川勝医長、右端：大内医長

他：医員6名、レジデント2名

外来診療担当表

★受付時間は、午前8時30分から午前11時30分です。(都合により診察医の変更あるいは休診の場合があります)
 ※医師名の後の数字は、月の週を表します。 ※(SO)はセカンドオピニオン診療だけの場合に表します。

2021年7月1日現在

診療科目	月	火	水	木	金
総合初診	稲葉	堀尾	室	山本	田近
消化器内科	原(初診) 田中(初診) 奥野 水野(伸)(SO)(第2・4) 倉石 山田(SO)	原 田近 丹羽 桑原 山田	田近 原 山雄(SO) 羽場 神谷	丹羽(初診) 奥野 田中 大西(初診) 水野(伸)	田近(初診) 水野(伸) 田中(SO) 桑原 山田 羽場
呼吸器内科	堀尾(再診) 渡辺(初診) 山口(再診)	藤原(初診) 渡辺(再診) 山口(再診) 大矢(再診)	清水(淳)(初診) 藤原(初診) 大矢(再診)	堀尾(再診) 清水(淳)(再診) 山口(初診)	堀尾(初診) 山口(再診) 大矢(再診) 藤原(初診)
循環器科	山本(充)	佐藤		山本(充)	
血液・細胞療法科	山本(再診) 田地(再診) 齋藤(初診)	山本(再診) 加藤(再診) 柳田(初診) 大野(随時) 森島(SO)	田地(再診) 加藤(初診) 齋藤(再診) 大野(随時) 森島(SO)	山本(初診) 柳田(再診) 齋藤(再診) 大野(随時) 籠谷(初診)	田地(初診) 加藤(再診) 柳田(再診)
薬物療法科	室 安藤 舛石	門脇 谷口	室 成田 本多	舛石 谷口	安藤 門脇 成田
頭頸部外科	花井 別府他(初診) 寺田(第1・3・5)	鈴木 西川(第1・3・5) 別府(第2・4) 澤部他(初診)	澤部 花井(初診)	西川 花井(第2・4) 鈴木他(初診) 寺田	別府 澤部(第1・3・5) 鈴木(第2・4) 西川他(初診)
形成外科	高成(第1・3・5) 奥村 中村(第2・4)	高成 奥村 丸山 中村	高成 丸山 中村	高成 奥村 丸山 中村	
呼吸器外科	高橋	黒田 高原	坂倉	黒田	黒田 白井 高原
乳腺科	岩田(SO) 堀澤(再診) 澤木(正)(再診) 小谷(初診)	岩田(再診) 吉村(初診) 能澤(再診) 服部(再診)	岩田(SO) 吉村(再診) 小谷(再診) 服部(初診)	岩田(初診) 澤木(正)(再診) 安藤(再診) 小谷(再診) 能澤(再診)	岩田(SO) 澤木(正)(初診) 吉村(再診) 尾崎(再診) 服部(再診)
消化器外科	伊藤(誠)(第1・3・5週) 三澤(第2・4週) 安部 檜垣	奥野(正) 三澤 木下(敬)	伊藤(友) 清水(泰) 小森(康)	夏目 伊藤(誠) 安部 大内	安部(SO) 川勝 藤枝 佐藤 柳野(SO)
整形外科	筑紫 吉田 濱田	筑紫	吉田		濱田 藤原
サルコマーセンター	筑紫 吉田 濱田	筑紫			濱田
脳神経外科	灰本		大野	灰本	大野
泌尿器科	小倉 小島(初診) 関戸		小倉(初診) 小島 関戸		小倉 関戸(初診)
婦人科	森	坂田 坪内 鈴木	坪内 安井	森 鈴木(第1・3・5週) 安井	坂田
放射線診断科	稲葉(初診) 村田	長谷川	稲葉(初診) 山浦	茶谷	稲葉 加藤
放射線治療科	古平(初診) 立花(再診) 小出(再診)	古平(再診) 立花(初診) 小出(再診)	立花(再診) 古平(再診)	古平(初診) 小出(再診)	立花(初診) 小出(初診)
精神腫瘍科	小森(予約のみ)	小森(予約のみ)	小森(予約のみ)	小森(予約のみ)	小森(予約のみ)
緩和ケア科	下山(午後)	下山(午前)	下山(午後)	下山(午前)	長谷川/下山(午後)
ペインクリニック			木村(午後のみ)		
リスク評価センター	井本(予約のみ)	井本(予約のみ)	井本(予約のみ)	井本(予約のみ)	井本(予約のみ)
がんゲノム外来	衣斐		能澤		
※以下の診療は、当院受診中の患者さんのみ受け付けております。					
糖尿病外来	平野			平野	
腎臓内科				立姿	
皮膚科	森	森	横田	森	
眼科		立川(午前のみ)			立川(午後のみ)
リンパ浮腫		中村(午前)		中村(午前)	

患者さん向け「がん冊子（電子版）」をご利用ください!

相談支援センターの入り口には、国立がん研究センターがん情報サービス等が発行している患者さん向けの「がん冊子」が置いてあり、患者さんにご覧いただいております。部数に限りがあるので、すべての方に提供することはできなかったのですが、今回、閲覧用の冊子の表紙にWEB版URLの二次元バーコードを添付し、患者さんやご家族様の携帯でアクセスできるようにしました。必要な方はぜひご利用ください。



新任医師の紹介

内視鏡部
神谷友康



2021年6月から内視鏡部に配属されました神谷友康と申します。これまで消化器疾患全般の診療に従事してきましたが、消化管癌に関して深く専門的な治療を学び、患者さんに還元できるようにと思っております。信頼してもらえるような医療が提供できるよう努めて参ります。

薬物療法部
谷口浩也



3年振りに愛知県がんセンターに戻ってきました。専門は食道・胃・大腸がんの抗がん剤治療です。国内外の大腸がん診断治療ガイドラインの作成委員を務めます。益者三楽の精神で日々問題解決に取り組んでいきたいと思っております。

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、精神腫瘍科、緩和ケア科(ペインクリニック)、リンパ浮腫外来、リスク評価センター、がんゲノム外来
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時 (土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)
 ※精神腫瘍科、リスク評価センターは、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でのご案内

- ◎一般道路
 本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- ◎高速道路
 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 編集：運用部 経営戦略課 企画・経営グループ

ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

「がんセンター NEWS」に関するご意見・ご感想は [☒\(kohonews@aichi-cc.jp\)](mailto:kohonews@aichi-cc.jp) または FAX(052)764-2963 にてお寄せください。

なお、個別の返答は致しかねますのであらかじめご了承ください。

愛知県がんセンター



がんセンターNEWSは古紙配合再生紙を使用しています。